

令和 5 年度東大阪市地域研究助成金事業
研究成果の今後の活用について

研究テーマ	ヤングケアラー支援体制を強化していく上で必要な事業、有効な事業の検証
担当部署	子どもすこやか部子ども見守り相談センター子ども相談課

研究概要	表面化しにくい精神科医療機関を受診している保護者等に特化した内容で、精神科医療機関に勤務するワーカー等を対象にアンケートを実施し、家庭においてヤングケアラーと認められる子どもが存在するのか、また、存在した場合、その固有の状況や特殊性があるのか調査し、それに対する支援策を考察する。
研究成果	精神科医療機関に勤務するワーカー等を対象としたアンケートの結果は、各地で実施されたヤングケアラーの調査結果と大きな相違はなかった。しかし、ケアの対象者が精神疾患を有することにより、心理的なケアやサポートが過度な内容となっていることが判明した。心理的なケア等の知識が少ない子どもにとっては負担となっているが、それに保護者が気づけていないこと、また子どもの心理的な負荷に対応するスクールカウンセラーは学校に配置されているが、保護者の病気について相談することへの抵抗感や拒否感が子どもに生じる可能性が推察される。子どもが置かれている状況を理解し、子どもからのヘルプを出しやすい環境を整えることが必要と考察された。
今後の活用	今回の調査結果では、精神疾患を有する家族のケアをする子ども特有の心理的ケアやサポートが過度であることが判明、また子どもは家族の精神疾患について周囲に相談しにくい状況が推察されたため、ヤングケアラーに対する支援のなかでも、精神障害や精神疾患を有する家族がいるヤングケアラーについては、特化した支援策を検討し取り組む必要があると考える。